

平成 28 年度

長野県総合教育センター研究発表会

～多様化する教育現場の課題に直面している教員を支援する研究調査～

プロジェクト研究資料（分科会 1）

プロジェクト C

『学力向上につながる授業づくり』

- 1 はじめの言葉,
発表の説明, ゲストコメンテーター紹介
- 2 各発表
 - (1) 学習問題 (2) 学習課題 (3) 友との協働
 - (4) 体験を通じた学び (5) 家庭学習
- 3 演習「『友との協働』を体験しよう！」
- 4 ゲストコメンテーター講評, お礼の言葉,
終わりの言葉

長野県総合教育センター



「共育」クローバープラン

学力向上

学力向上のために！
よりよい授業づくりの
きっかけとなる提案をします。



こんな悩みはありませんか？

- 学力向上のために、授業改善に取り組みたいのだけれど、具体的にどうしたらよいのかわからない。
- 学力向上のための授業づくりの第一歩を踏み出したい。そのためのきっかけが欲しい。

本日のタイムテーブル

この分科会では

- 研修講座の内容と、学校現場での実践を関連させ、
- そこからわかった学力向上のための授業づくりのポイントを、
- 実際の授業場面に即してまとめました。
- 「友との協働」についての演習も用意しました。

学力向上のための
授業づくりに、
ご活用下さい！

分科会1 12:40～14:10

○初めの言葉、発表の説明、
ゲストコメンテーター紹介〈5〉

○各発表〈計55〉

- (1) 学習問題〈10〉
- (2) 学習課題〈10〉
- (3) 友との協働〈15〉
- (4) 体験を通じた学び〈10〉
- (5) 家庭学習〈10〉

○演習『「友との協働」を体験しよう！』
〈25〉

○ゲストコメンテーター講評、
お礼の言葉、終わりの言葉〈5〉

追究せずにはいられない！ザ・学習問題

実践協力校：岡谷市立神明小学校

小3国語 教材文「ちいちゃんのかげおくり」

学校現場で

- 子どもの主体的な追究を目指して、丹念に子どもの姿を追い、子どもの学びの道筋を考える。
- 教材文を読み込み、その価値をとらえる。
- 教材文で考えるべき事について、子どもの意識のズレを位置付け、子どもが自分ごととして追究できるような学習問題を、子どもの学びの道筋を考慮して設定する。



『ちいちゃんのかげおくり』は、
よかったお話?悲しいお話?」

校内研修支援で

授業と関連させた家庭学習のあり方についての校内研修支援で、この学習問題を位置付けた単元展開に沿って、授業と家庭学習を、実際に体験する。

「これまでの授業観がひっくり返りました。」

「学力を向上させる根本と日頃の取り組みの改善法を学び直せました。」

研修講座で

『読むこと』の指導を考える』で紹介し、この学習問題が生まれた過程、価値を解説する。

「私もやってみました！手応えあり！」

「子どもたち、すごく考え合っていて、いい授業になりました。」

「ザ・学習問題」のためのポイント

- 教材の価値と系統をふまえて、つける力を明確にする。
- 子どもの意識、考えのズレから生まれた問いから学習問題を設定する。

主体的な追究を生む！課題把握

実践協力校：松本市立清水中学校

中1 技術・家庭科技術分野 「スプラウトを栽培しよう」

研修講座で

研修講座「中学校技術 授業づくり基礎」で、以下の3点について改めて考える。

- 「つける力」をはっきりさせ、子どもが追究することは何か明確にすること。
- 教材研究のポイントとして、「着目点」を定めること、子どもの実態に沿った子どもを「着目点」に導く手立ての準備をすること。
- 子どもの実態に基づき、学習活動と展開を考えること。

「課題を焦点化して、話し合いの軸を共有しながら追究させたい。そのために、しっかり教材研究をしたい。」

学校現場で

- 子どもの主体的な追究を目指して、実践的、体験的な学習の中で、どのようなことに願いや問題をもつのかを子どもの実態から考え、子どもの学びの道筋を考える。
- 教材研究からその題材を通してつける力とその価値をとらえる。
- つける力と教材研究から「着目点」を設定し、そこに導く手立てを講じることにより、生徒と共に、何を追究するのか、どのように追究するのかを明確にする。

「主体的な追究につながる学習課題」のためのポイント

- つける力を明確にし、教えることと考えさせることをはっきりさせる。
- 生徒の実態に合わせた「着目点」を定め、そこに導く手立てを考える。
- 生徒と共に、何を追究するのか、どのように追究するのかを明確に。

友との協働！なるほど、つながっているんだね

実践協力校： 飯田市立遠山中学校 阿南町立阿南第二中学校

中3社会 小単元「目覚める！民衆の力（大正時代の特色をとらえる）」

学校現場で

- 教材の価値を教師自身にとらえ、単元のねらいを明確にする。
- 単元のねらいに迫る単元を通じた学習問題を児童生徒とともに設定し、追究の方向を児童生徒とともに明確にする。
- 子どもたちが主体的に関わり合い、互いの考えを交流させる必要感のある場面を設定する。

「なるほど！（大正時代の民衆が力をもったのは、私の調べた〇〇と、あなたが調べた◇◇は、関係していて、）つながっているんだね。」（生徒の声）

校内研修支援で

授業者たちとともに教材研究や単元構想を行い、その授業を参観することを通して、生徒の具体的な姿から教材研究や単元構想、さらに1時間の授業を振り返り、生徒が学ぶ道筋や協働的な授業づくりのあり方について視点を明確にする。
「様々な先生方のおかげで、単元全体を構想でき、協働的な学習を進めることができました。」（実践者の声）

研修講座で

研修講座において、実践発表をしていただき、実践者自身が取組を振り返るとともに、講座を受講した先生方には、実践の良さや課題を持ち帰り、授業づくりに活かしていただく。

「友との協働」のためのポイント

- 友と協働して解決する「問い（学習問題）」が全体で共有されている。
- 一人一人が根拠を明確にした考えをもち、「問い（学習問題）」の解決に向けて、互いの考えを交流する場を設定する。
- 互いの考えやその根拠の共通点や相違点などが明確となる思考ツールを用いながら、関連性を考えさせる。
- 「問い」に対する個々の考えをまとめる場面を設定する。

進化し続ける家庭学習

実践協力校：駒ヶ根市立東中学校

家庭学習改善の取組から授業改善へ

研修講座で

家庭学習改善に取り組んだ県内モデル校の実践発表，県内外の家庭学習改善に向けた取組，校種・学年・教科ごとに情報交換会から，自校または自身で取り組めそうな活動のヒントを得る。

「授業に関連づけた宿題を出すことの大切さを感じ，自分自身の宿題の出し方を見直す機会となりました。」

「他県，他校のいろいろな取組から，できそうなことを自分で始めてみたいと思いました。」

「他の学校の工夫や悩みをお聞きすることができ，勤務校に戻ってからの工夫・実践へつなげたいと考えさせられた1日でした。」

学校現場で

○受講して考えたアイデアを形にし，実践してみる。

- ・授業内容がより定着するように，授業のまとめを家庭学習に位置付ける。
- ・主体的な取組になるように，自分自身で授業を振り返り，まとめ直す家庭学習を設定する。

○児童・生徒の姿から改善を図る。

- ・「カンニングペーパー（学習した内容について，自分で大事だと思うことをまとめたもの）」

を作っていない理由を考える。

「授業のまとめが，不明確だった！」

- ・生徒の思いを聞き，生徒にとってより確かな力になるように，その授業のまとめを板書で位置付け，明確にする。

「進化し続ける家庭学習」のためのポイント

- まず授業 それを支える家庭学習
- 「つける力が付いたか」を視点に，常に授業・家庭学習を進化させる

ぜひやりたい！絶品実験

実践協力校：長野県中野西高等学校

高1 化学基礎 フェノールフタレインの合成実験

研修講座で

- 「授業に生かす高校化学実験」で紹介した内容で、目で見てわかる実験，準備や後片付けも簡単で安全な実験を目指す。
 - 簡潔な実験を授業に盛り込むことで，生徒の意識がどのように変化していくか考える。
 - 実験をただの経験で終わらせず，そこから生じる新たな疑問をピックアップして次につなげる。
- 「酸塩基指示薬？よく使うものだけど，それって作れるものなの？」

学校現場で

- 実験を実践することで，知識伝達型になりがちな高校現場においても生徒の興味・関心を高める。また，楽しい・面白いという感想とともに生徒がもつ科学的な能力や探究心を再発見する。
「もっと実験をしてみたい，という生徒がこんなにいるんだ！」
「自分の手で操作し，自分の目で確かめる授業にしなければ！」
- 実験を通じてものに触れる機会を増やし，机上の知識ではなく確固とした体験としての確立を目指す。

「ぜひやりたい！絶品実験」のポイント

- 実験は面倒なことではない。
- 生徒たちは実験したい。
- 子ども達の「体験」を大切に。

発表者一覧

追究せずにはいられない！ザ・学習問題

大野 征二(おおの・せいじ)
担当:国語科

主体的な追究を生む課題把握

宮原 啓一(みやばら・けいいち)
担当:技術・家庭科(技術分野)

友との協働！なるほど、つながっているんだね

松澤 和憲(まつざわ・かずのり)
担当:社会科

ぜひやりたい！絶品実験

松本 俊一(まつもと・しゅんいち)
担当:理科

進化し続ける家庭学習

高橋 廣貴(たかはし・ひろき)
担当:学力向上

お問い合わせは、各担当まで
電話：0263-53-8803
FAX：0263-87-8854
E-mail：kyouka@edu-ctr.pref.nagano.jp